

東近江市地域福祉活動計画

～こんな地域にしたいをカタチに～

まち

東近江市社会福祉協議会
地域福祉課 金子 泉美



策定委員の構成（42名）

- 大学 教授等
- 地区社会福祉協議会
- 住民福祉活動計画 推進会議
- 民生委員・児童委員
- 主任児童委員
- 生活支援サポーター
- まちづくり協議会
- コミュニティセンター 館長
- NPO
(福祉関係・まちづくり関係)
- 高齢者関係
施設、ケアマネ
- 児童関係
つどいの広場、少年センター
- 障がい関係
障がい福祉サービス事業所等
サマーホリデー事業保護者役員
福祉共育協力者
- 医師、消防署
- 商工関係など
農業生産法人、旅行会社、生協
青年会議所
- 大学生(学習支援v・地元の学生)
- 市健康福祉政策課
- 県社協

- ★福祉関係者だけでなく、**まちづくり**や**商工関係**など**様々な分野**から**参画**してもらおう⇒**多くの声**を聞く、その**声(思い)**を**計画(カタチ)**に…
- ★東近江市の福祉のまちづくりに関わっている方(団体)、これから関わってもらいたい方(団体)に声かけ ⇒ 様々な人を**地域づくり**に**巻き込む**

次期地域福祉活動計画 策定スケジュール

◆令和2年度

◎第2次地域福祉活動計画 進捗確認・ふりかえり

- ・社協
- ・各地区、市域

◆令和3年度…第3次策定期間

- ・社協 勉強会、作業委員会の開催
市との情報共有、検討
- ・各地区 14地区それぞれで策定
- ・市域 策定委員会の開催

東近江市における地域福祉の課題

⇒地域の方の声や意見を基に…

■各地区（14地区：地区ごとに方法・手法が違う）

- 住民福祉活動計画推進会議
- 住民懇談会
- 中学生懇談会
- 医療と福祉の専門職との懇談会
- アンケート、聞き取り

■市域

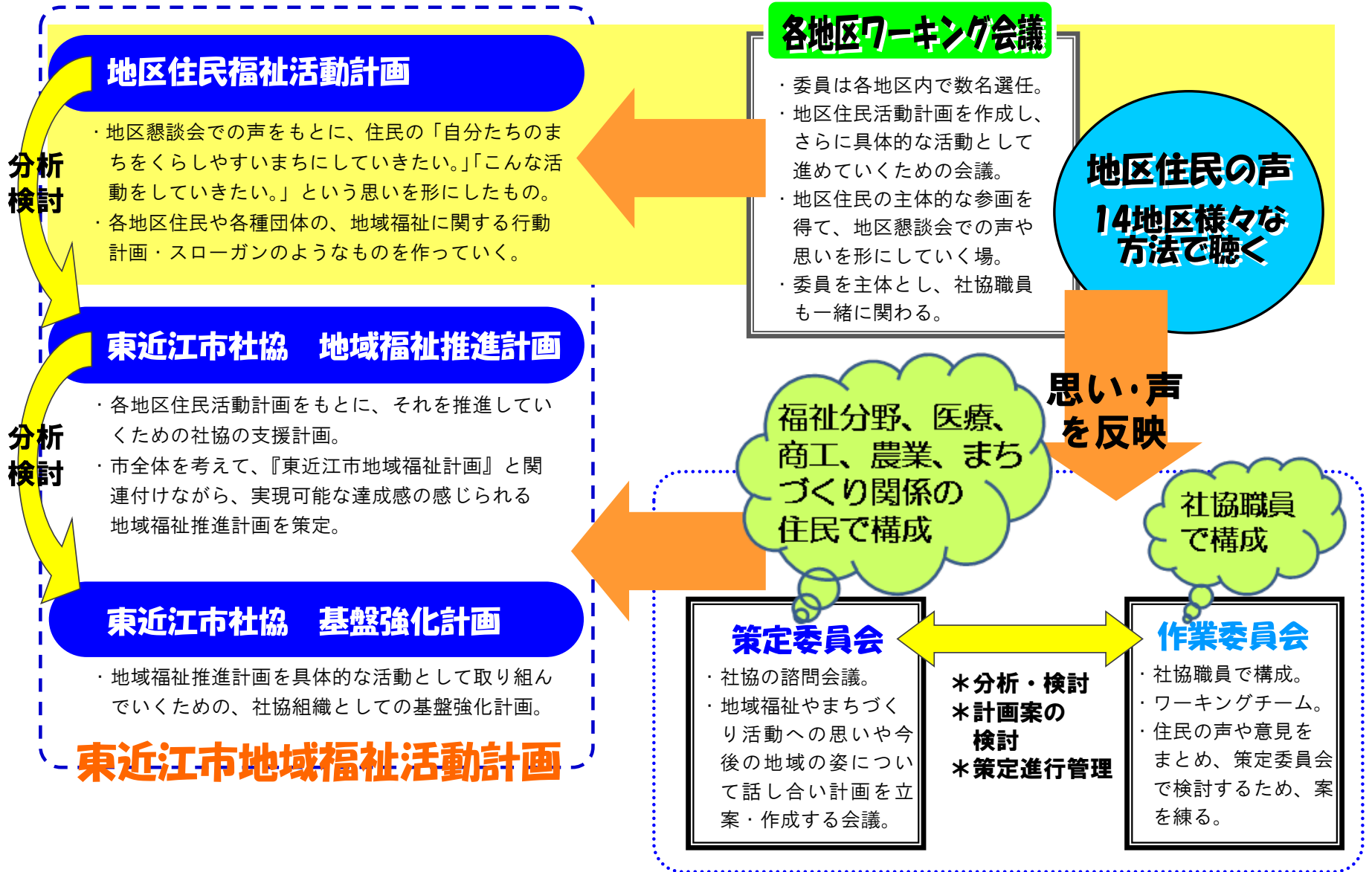
- 策定委員会
各地区の声を基に、市域で考える課題を整理
⇒ボトムアップで…
5年後の願いを出し合う
- 20歳の若者懇談会

東近江市における地域福祉の課題

- 人とのつながりが希薄になってきた
- 地域とのつながりがなく、孤立してしまい、しんどさを抱えている人がいる
- 「困った時は、お互いさん」といった支え合いが少なくなった
- 家族だけで解決できない困りごとが増えた
- 「助けて」「困った」と言いづらい。SOSが出せない人がいる
- 「助けて」と言ってもらえれば、「何かできるよ」という人はたくさんいるけどつなげられていない
- 「相談窓口」に行くのは、勇気がいる。どこに相談したらいいかわからない
- 「放っておいてほしい」人もいる。気になるが、どうか関わっていいかわからない
- 「認知症」であることが言えない、隠そうとする家が多い

- 地域や地域活動に関心がない人、参加しない人が増えた
- 地域の事が、自分のこととして考えられない
- 地域の担い手が不足してきている、固定化され負担になっている
- 「生活困窮」「子どもの貧困」など、ニュースで聞くと、身近な所の実態が分からず、身近に感じられない
- 困りごとを抱える人のことを知る機会がなく、それに気づく人が少ない
- 趣味や得意なことを地域活動に活かす場やしくみがない
- 団塊の世代は人材豊富だが、その特技や趣味を地域活動に活かせていない
- 「子育て世代」は、地域活動に参加できないとされている
- 子ども（中学生以上）が参加できる地域行事や地域とつながる場がない
- 若い人の思いが聞けていない。意見交換の場がない
- 障がい児者が、地域の行事や活動に参加できる機会がない
- 地域の活動を知る機会が少ない。地域の活動が知られていない

東近江市地域福祉活動計画の策定過程



地域福祉課題に対し、計画への盛り込み方 (策定で大切にしてきたこと)

■ “話し合い”（協議）の場

◎ワークショップで進める

- 策定委員会に参加しているメンバーがそれぞれの立場で、東近江市の「いま」と「これから」を考え、協議する

■ 住民の「こんな地域にしたい」の思いをカタチにし、 福祉のまちづくり につなげていく

⇒策定のプロセスを重視

計画づくりが目的ではない。策定プロセスが、福祉のまちづくり